

議員提出議案第九号

沖繩戦「集団自決」の日本軍関与を否定する教科書検定意見の撤回を求める意見書  
右の議案を提出する。

平成十九年十月十七日

提出者

杉並区議会議員

けしば

誠

一

杉並区議会議長

河野

庄次郎

様

沖繩戦「集団自決」の日本軍関与を否定する教科書検定意見の撤回を求める意見書

文部科学省は、二〇〇八年度から使用される高校教科書に、沖繩戦の「集団自決」について「日本軍による強制または命令は断定できない」との検定意見をつけ、五社七冊の日本史教科書での記述の削除・修正を指示しました。これに対して、沖繩では検定意見の撤回を求める意見書が二度にわたって県議会で決議され、全四十一市町村でも同様の決議が可決されました。全国の地方自治体においても同様の決議があがりはじめています。沖繩での「集団自決」は日本軍の「命令・強制・誘導等」が無ければ起こりえなかつたことです。沖繩からの度重なる要請にもかかわらず、文部科学省は依然としてかたくなに検定意見の撤回を拒み続けています。

九月二十九日、宜野湾市海浜公園には十一万を超す人々が、石垣島・宮古島では六千人が集い、「沖繩戦集団自決」検定意見の撤回を求める声は百三十七万全県民の声にまで高まりました。「集団自決」の生き残りの方々は、六十二年間心の内側に閉じ込めてきた苦しみを語り始めました。県民大会での「あの醜い戦争を美化しないでほしい。たとえ醜くとも真実を知りたい、学びたい、伝えたい」という高校生代表の訴えは、全国に大きな反響を呼び起こしています。一昨日は、沖繩から二百人を超す要請団が国会申し入れを行い、東京沖繩県人会の呼びかけた集会には六百五十人を超える人々が集い、検定意見の「撤回」を求める声は沖繩だけでなく全国に広がっています。

沖繩は先の大戦で、国内で唯一の地上戦が行われ、筆舌に尽くしがたい犠牲を強いら

れた島です。戦後も米軍の支配下に置かれ、日本に復帰した後も、日本にある米軍基地の七十五パーセントが依然として集中し、県民は絶えず命の危険と厳しい暮らしを強いられてきました。

原水爆禁止運動の発祥の地であり、平和都市宣言をいち早く発した杉並は、この沖縄からの訴えを真摯に受け止め、私たち自身の問題であることを広く呼びかけるものです。平和を希求し、悲惨な戦争を再び起こさないためにも、沖縄戦の実相を後世に正しく伝えることは大切です。

杉並区議会は、文部科学省が沖縄戦「集団自決」の日本軍関与を否定する教科書検定意見を、速やかに撤回されるよう強く求めます。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出します。

平成十九年十月十七日

杉並区議会議長名

